

# 神奈川県の学童保育

参議院選挙が終わった。結果に対し、思いは様々。

各会派の主張に注目。「同一労働、同一賃金。」全ての会派の主張。「給付型奨学金の充実」中には、「憲法改正で教育費無償」まで。今の憲法のもとで特に問題ないはず。

やる気があれば直ぐできる。

さて、どうなることやら！

## 第41回定期総会を開催

— 財政健全化が喫緊の課題に —

去る2016年6月19日、横浜市社会福祉センターにて定期総会を開催しました。県内の地域学童保育連絡協議会からの会員を中心に、個人会員含め43人が参加し、役員会からの総会議案の提案に対し活発な議論がなされました。2015年度活動報告、決算を承認した後、2016年度活動方針、予算案をめぐる議論が白熱しました。特に県連協財政が危機的状況にあり、「財政健全化の、より具体的な活動方針が必要」との参加者からの意見を踏まえ、活動方針に一部修正を加える等の再提案を経て、無事承認されました。

今回の総会は県連協創立40周年という節目に開催されること、また、「新しい制度」の下で初めて指導員資格の認定資格研修が実施されるという画期的な状況に、私たち県連協の活動が益々重要となっており、安定した財政再建が喫緊の課題であることをみんなが共有する重要な総会となりました。

会議交通費の削減に協力を表明して頂いた地域連協の皆さんの努力に感謝いたします。

今後、「日本の学童ほいく」誌を増やししながら、財政問題に特化した運営委員会を精力的に開催し、課題解決に向けて知恵と力を合わせて行きましょう。

総会の後、午後は地域連絡協議会の総会資料等をもとに地域の状況や運動方向について意見交流しました。

総会は2016年度役員として以下の13名を承認しました。

会長：小神長次

副会長：上崎輝夫、内海洋子、岡崎進、木村美登里、中山光江、松浦こずえ、山崎善明(事務局次長兼務)

財政局長：石井治

事務局長：河野眞明

事務局次長：池谷潤、小関富美江(副会長兼務)

監査役：堀英司

尚、来賓として「神奈川の学童保育を支援する議員連盟」副会長：赤井議員はじめ三名の県議が出席しました。

### 第41回全国学童保育指導員学校(南関東会場)開催

去る6月12日(日)、明星大学(日野市)にて、第41回全国学童保育指導員学校(南関東会場)が開催されました。1都13県より706名が参加し、神奈川県内からも207名もの参加がありました。午前中は3会場に分かれ、基調報告と記念講演が各会場で行われました。記念講演は、どの会場も全国連協副会長による『放課後児童クラブ運営指針』を現場から読み解く」という新しい試みでした。

“学童保育・指導員の役割”“学童保育の生活で大切にしたいこと”“職業倫理・職場集団のあり方”など、運営指針に書かれている内容と保育実践を照らし合わせながらの講義でした。今まで学童保育の生活の中で大切にしてきたこと、指導員の仕事として大事にしてきたことなどが具体的に運営指針の中に示されていることがわかり、まだ具体的に役割として不十分なところは各学童で整えていかなくてはと講義を聞きながら感じました。

参加者からは「指針が読めて良かった」「現場の目線で具体例を交えてお話ししてくれてよかった」「講師が身近に感じられた」などの感想があり大変好評でした。

運営指針は「全国的な標準仕様」として出来たもので、学童保育を運営する上で課せられたものではなく、運営していく上で支えとなるものと講義の最後に話され、学童保育のあるべき姿が示されたものになるのだと思います。

午後は入門講座、理論講座、実践講座、特別講座の計19講座、どの講座も学童保育の実践につながる内容でした。

## 活動報告(6月～7月の主な活動報告)

6月2日(木) 県連協6月運営委員会	7月3日(日) 第42回指導員(一日)交流会
6月12日(日) 第41回指導員学校・南関東	7月7日(木) 県連協7月運営委員会
6月17日(金) 県連協6月役員会	7月15日(金) 県連協7月役員会
6月19日(日) 第41回県連協定期総会	*県議会各会派ヒアリングを実施

## ♪ 地域連協だより ♪

### 三浦市連協より

三浦市には、8つの小学校がありますが、放課後児童クラブは4つしかなく、居住地の学区にクラブがないために小学校の学区を変更している児童も少なくありません。この4つのクラブは保護者が運営を行っており、全てのクラブが三浦市連協に加盟し活動しています。

6月には、指導員の処遇改善の為の「処遇改善費」の予算化等補助金に関する事項と、保育環境の改善について、要望書を提出しました。

7月には、県議・市議との懇談会を開催し、各学童の現状や自助努力では解決出来ない問題や要望書の内容を伝える事ができました。来年度に向けて、どのクラブも受入れ人数の定員に迫る児童数を抱えており、入所基準の整備や、学童の増設対応等が課題となっています。

引き続き行政と協力しながら、学童保育を必要とする子ども達の為に力を合わせていきたいと思えます。



夏休み保育に汗を流していらっしゃると思います。どんな活動をしていますか？

さて、今月は三浦市、そして逗子市の様子、連協で現在活動していること等々、ご紹介します。

### 逗子市連協より

逗子市には5小学校有り、各1学童保育が公設で設置されています。保育料はおやつ代を含め12,000円ですが、減免措置があり11段階となっています。

他市に劣らず、利用希望者は増加し、逗子小学校校区では18人もの待機児童が出てしまいました。久木小、池子小も定員いっぱいの状況です。

4月に開催した、市連協総会や市主催の保護者会連絡会の中で、待機児童の問題ほか様々な実態が出されました。

逗子市には「ふれあいスクール」という遊びの場がありますが、やはり学童保育ではありません。

市連協としては、必要とするすべての子どもが学童保育に入れるよう、そして指導員の処遇をさらに改善するよう、市に要望書を出す準備をしています。

来月の「地域連協だより」では横浜市と横須賀市を予定しています。お楽しみに！

## <これからの予定>

9月11日(日) 第43回指導員(一日)交流会(野島青少年研修センター)

10月2日(日) 県連協拡大運営委員会・学習会(三浦市初声市民センター)

10月29日(土)～30日(日) 第51回全国学童保育研究集会(通称 全国研) in 愛知

～県連協で、全国研の宿泊・新幹線の手配をいたします。詳細はお問い合わせください～

この他、県連協運営委員会は第1木曜日、県連協役員会は第3金曜日に定例で開催しています。

\*研修等の詳細は、県連協HP(<http://atdiary.jp/kanaken>)をご覧ください。